

「ワシントン管見雑感」 「第21回震災対策技術展」

神谷 直亮

今号では、まず、3月に1年ぶりにアメリカの首都ワシントンを訪れ、1週間滞在する機会に恵まれたので近況を報告する。次いで、2月2日から3日までパシフィコ横浜で開催された「第21回震災対策技術展」に触れたいと思う。

「ワシントン管見雑感」

首都ワシントンは、トランプ旋風で少し騒々しいだろうと考えていたが、予想外に穏やかなムードであった。ホワイトハウスのビクターゲートには、相変わらず好奇心旺盛な訪問客が静かに列を作っていた。一方、久しぶりにペンタゴンへ行ってみたいと思い、ホテルで見学客の受け入れ状況を聞いてみたら、事前に申し込みを行い許可をもらわないとダメとの厳しい回答であった。

そこで「ニュージウム (Newseum)」へ行ってみることにした。「ニュージウム」は、「ニュース」と「ミュージウム」をかけた造語で、ペンシルベニア大通りと3番街の交差点にある。今回このメディアのメッカを6年ぶりに訪れて、日本関連の展示を2件目にした。1件は、「World Press Freedom」のコーナーにフリージャーナリストの安田純平氏が「助けてください。これが最後のチャンスです」という手書きの

メモを手にして立っている写真が展示してあった。2016年5月にシリアで武装勢力に拘束された時の写真で、Japan Timesに掲載されたものという。もう1件は、「The Story of News」のコーナーに、2011年3月12日付け読売新聞の大地震 特別紙面「東日本 巨大地震」の記事が展示してあった。

一回りして気付いた新しい試みとしては、やはり「VR Lab」があげられる。ミュージアムの3階に設けられたこのコーナーでは、サムソンのヘッドマウントディスプレイを使って、アメリカで制作された10作品のVRコンテンツを視聴することができた。

ホテル (マリオット・メトロセンター) に戻って、テレビをつけて驚いたのは、インターネットテレビのメニューがまず出てきた。画面にリストされていたのは、Netflix、Hulu、Pandora、YouTube、Crackle である。番組内容をチェックしようとしたら、Netflixのパスワードを持っていないと見られない仕組みになっていてあきらめざるをえなかった。

日を改めて、ペンタゴンシティにある家電量販店「ベスト・バイ (Best Buy)」を覗いて見た。中国製の4Kテレビが店内を席卷しているだろうと予想していたが、ハイセンス社製の製品が並んでいるだけで、

アメリカのVizio、日本のソニー、韓国のLG電子の4Kテレビと、サムソンの「SUHD Quantum Dot TV HDR1000」が大きなスペースを占めていた。価格をチェックしてみたら、ハイセンスの50インチ4Kテレビには399ドル、Vizioの55インチ4Kテレビ (Chromecast 内蔵) は529ドルの値札が付いていた。ちなみに、サムソンのフラッグシップモデルと言われる「SUHD Quantum Dot TV」の65インチモデルは、2,199ドルで売られていた。

「第21回震災対策技術展」

「ここまで来た、災害への備えと対応のテクノロジー」をうたった「震災対策技術展」の会場には、耐災害性を誇る衛星通信事業者を代表して、スカパーJSATとソフトバンクが出展していた。また、NECフィールディング、原田物産、情報通信研究機構が、災害支援・レスキュー用のドローンを紹介して来場者の注目を集めた。

スカパーJSATは、今回、同社の「EsBird」サービスに対応する東芝と日本無線の平面アンテナ衛星可搬局を目玉にして出展した。初出展という東芝の平面アンテナは、二つ折り方式になっておりコンパクトに収納ができるのが特色である。かつアンテナ、送受信部、変復調部、三脚が一体化されており、展開に特別な工具

やスキルを必要としない。通信機能については、「個別IP通信用3チャンネル、チャンネル制御用に1チャンネル、計4チャンネルまで実装可能なマルチチャンネルモデムを搭載している」と語っていた。質量を聞いてみたら、「20キログラム以下」との回答であ



写真1 ニュージウムの「World Press Freedom」のコーナーには、フリージャーナリストの安田純平氏の写真が展示してあった。



写真2 ニュージウムには、新しく「VR Lab」が設営されており、多くの来場者が視聴を試みていた。

った。

日本無線の「PortaLink」は、ハイビジョン伝送にも対応できる最大9Mbpsの伝送実績を誇っている。組み立てから衛星を捕捉できるまでの時間を聞いてみたら約5分とのことであった。



写真3 スカパー JSAT は、同社の「EsBird」サービスに対応する東芝の平面アンテナを初出展した。



写真4 NEC フィールドインジニアリングは、日本サーキット製のドローンを出展して、トータルなサポートができることアピールしていた。

この他、スカパー JSAT は、展示会の趣旨に沿って「SafetyBird」と「衛星デジタルサイネージ」という新しいサービスの売込みに余念がなかった。

緊急地震速報衛星配信サービスとして知られる「SafetyBird」は、すでに鉄道会社、電力会社、建設・ビル管理事業者など180拠点で採用されているという。まさに、耐災害性、広域性、同報性を柱とする衛星通信だからこそできるサービスと言って良い。「衛星デジタルサイネージ」を始めた狙いについては、地域情報の発信機能と衛星通信機能を組み合わせることを考えたという。つまり、平常時には地域のイベントや観光案内などを発信し、災害時には衛星を経由して電話やインターネットを安心して使えるようにする工夫を凝らしている。ブースの説明員は、「すでに岩手県遠野市・道の駅にこのデジタルサイネージシステムを設置して、JCSAT-2B衛星を使った通信デモを行っている」と、現場の写真を指差しながら語っていた。

「つながる安心」を旗印に掲げたソフトバンクは、ブースにスラーヤ社（本社、アラブ首長国連邦）のグローバル衛星携帯電話端末「501TH」と、屋内利用を可能にするドッキングシステム「FDU-XT」を熱心に売り込んでいた。最新の「501TH」端末は、コンパクト、軽量、防水、防塵を誇っており「災害時にも手軽に安心して使える。天候不良の海や山でも利用できる。国内最長9時間の連続通話が可能」と説明していた。質量を聞いてみたら「バッテリー込みで約212グラム」との回答であった。料金プランについては、「2年契約のバリュープランで、月額基本使用料が4,900円。月額無料通信1,000円。通話料が1

分160円」と語っていた。

NEC フィールドインジニアリングは、ミニサバイヤーコンソーシアムと日本UAS産業振興協議会のメンバーで、ドローンの活用に関するサポートを行っているという。今回は、ブースに日本サーキット（本社、神奈川県川崎市）製のドローン「JH950カスタム」を出展して「購入から操縦者の教育訓練、トラブル対応や保守点検までトータルなサポートが可能」と強調していた。展示されたドローンには、災害対策用ということもあり、カメラ、無線機、拡声器、ランプ、浮き輪などが搭載されており、来場者が興味深くチェックする姿が見られた。

原田物産は、「純国産オートパイロット搭載、レスキュー・災害支援用」と銘打った最新のドローン「ACSL PF-1」を紹介した。機体の開発・製造を行っているのは自律制御システム研究所（千葉県千葉市）で、原田物産は特約販売店とのことであった。標準装備を確認したら「レスキューモデルには、赤外線カメラ、動画撮影用カメラ、物品投下装置、LEDライト、無線スピーカー、救助用浮き袋が搭載される」と説明していた。この他、同社は、ミニサバイヤー「MS-06LA」と呼ばれるドローンも披露した。搭載されている救助機能は、「ACSL PF-1」と同じとのことであった。

情報通信研究機構は、建造物密集地や山間部など、電波の遮蔽が多い

環境下でドローンの見出し外制御を可能にする無線制御システムのプレゼンテーションを行った。「タフ・ワイヤレス」と名付けたこのシステムは、内閣府の革新的研究開発推進プログラムに則って、産業技術研究所と共同で開発中とのことであった。システムのポイントは、制御局、中継局、ドローンに搭載する端末局を、920MHz帯の電波で低遅延マルチホップ制御通信を行うことにある。

衛星通信、ドローン以外では、パイオニアVCが出展した災害対策・作戦テーブルが目についた。「バイシンク（xSync）」と名付けられたこのテーブルは、10点タッチパネル方式で電子地図、Web情報、現場写真などを複数表示できる。表示されたコンテンツ上に手書きで指示を行うこともできるので非常に便利でもある。ブースの担当者は、「すでに国土交通省航空局に納入実績がある」と語っていた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト



SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員

1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下（地下駐車場可）

3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内（100V）海外（240V）対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

